

観光と産業を結び活路を開く。

漆器職人が言うには「漆は湿気を吸って乾く」。えっ？ と大抵の人は聞き返す。「湿気を吸うんじゃ湿るだけでしょ」「いや、乾くんや、湿気で」。職人は真顔で繰り返す。

職人の言葉は矛盾しているようでも、工房で仕事を見ているうちに分かってくる。空気が乾燥していると、盆や椀（わん）に塗った漆はいつまでも乾かないし塗りムラも消えない。でも湿気があれば、きれいに仕上がる。〈本当だ、漆は湿気で乾く〉。その不思議に触れ、手仕事の世界に引き込まれる。

一言でいえば「産業観光」だろう。福井県のほぼ中央部にある鯖江市で、ものづくり職人の仕事に触れるイベント「RENEW」が大きく育とうとしている。2015年の初回、来場者は約1200人。それが3年目には約3万5千人に膨れ上がった。

潜在力はあった。鯖江市といえば眼鏡のまちだし、市内の河和田地区は古くからの漆器産地。そこから車で10分も走って越前市に入れば越前和紙の産地があり、さらに越前打刃物、越前箆笥（たんす）、越前焼の工房が点在している。これだけ狭い範囲にもものづくりの産地が集中しているのは、たぶん全国でも珍しい。足りなかったのは、観光と結びつける戦略性を持った「仕掛け人」だった。

RENEWが可能性を感じさせるのは、ものづくりを志して河和田地区に移住した若者集団が企画し、地元の若手経営者らとともに運営しているからだ。なかでも中心にいるデザイナーの新山直広さんは、いい意味でよそ者の目を持ち「自分たちの生活のためにも持続可能な産地に」と懸命なのが心強い。

福井県は京都と金沢に挟まれた、いわば谷間の観光地。いまだに外国人もあまり見かけない。だからといって一発逆転を狙うのは非現実的だ。観光振興はまちづくりの手段なのだから、既存の資源を上手に利用してこそ活路が開ける。RENEWは福井らしい。

福井新聞社 執行役員論説委員長 遠藤富美夫



持続可能な産地づくりを目指した体感型マーケット「RENEW」。鯖江市・越前市・越前町全域で毎年10月に開催。